

教育ひょうご

保護者版
地域版

第98号

教育ひょうご保護者版は、教育の課題をみなさんとともに考えるため、兵庫県教職員組合とゆたかな教育の創造をめざす兵庫県民会議で編集したものです。

2面

- ・展示・体験コーナー
- ・子どもと親の劇場
- ・県民署名のお願い

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
 兵庫県教職員組合
 発行人 兵庫県教職員組合
 代表者 泉 雄一郎
 編集人 森 戸卓也
 電話 050(3538)2346

第65次兵庫県教育研究集会

ひょうご教育フェスティバル

いきる つながる みちひらく
～自立と連帯・共生の学びと教育～

2015年
11月14日(土)
15日(日)

赤穂市で開催



**子どもの育ちを考える
シンポジウム**
 震災から学ぶ
 ー不登校、いじめ、虐待への予防と対応ー

14日午後1時30分から塩屋小学校体育館で「震災から学ぶー不登校、いじめ、虐待への予防と対応ー」をテーマに、子どもの育ちを考えるシンポジウムを開催します。

阪神・淡路大震災から20年。「生命と心の教育」の問題に立ち返り、不登校、いじめ、虐待への予防と対応について、ともに考えましょう。

24の分科会
 保護者・地域の方々のレポート参加も

赤穂西中学校と塩屋小学校で開催する分科会は、14日は午後1時30分から、15日は午前8時45分からおこないます。特別分科会「生きる力を育む教育」を含めた24の分科会で、レポート報告をもとに日頃のとりくみや教育実践について話し合います。

保護者・地域の方々からの報告もあります。「子どもを中心にしたわが家の授業、楽しい学校づくり」をめぐった教科系の分科会と「地域と手をたずさえて子ども・保護者の願う教育改革」をめぐった課題別の分科会があります。



赤穂市で「ひょうご教育フェスティバル」(第65次兵庫県教育研究集会)を開催します。

兵庫教育文化研究所と兵庫県教職員組合の主催で、県教育委員会や赤穂市をはじめ、地域の教育委員会、校長会、PTA協議会などの後援を受けています。

教職員と保護者、子どもたち、はたらく仲間のみならず地域の方々も、教育や子育てについてともに語り合い、研究を深めます。また、楽しいステージ発表、子どもたちの笑い声が響くような展示・体験コーナーの設置など、「地域に開かれた教育研究集会」として開催します。

創造的な教育研究活動の定着・発展と、
保護者・県民の信頼に応える教育力量の向上をめざして

子どもの貧困
 ーソーシャルワークの可能性ー

大阪府立大学大学院教授・山野則子さん

厚生労働省調査(12年度実績)によると、18歳未満の子どもがいる世帯の相対的貧困率は16.3%と悪化しています。こうした中、教育の機会均等を保障し、格差を是正し、貧困の連鎖を断ち切ることを目的とした「子どもの貧困対策推進法」が成立しましたが、具体的な施策にはまだ結びついていません。

そのような中、学校の役割がさらに重要になってきています。学校を子どもの貧困問題のプラットフォームと位置づけることで、子どもたちの生活背景にある人権や貧困の問題を把握し、福祉との連携をはかることが可能となります。

21世紀科学研究機構スクールソーシャルワーク評価研究所所長も務める、大阪府立大学の山野さんは、市町村に福祉の専門家を、学校にスクールソーシャルワーカーを導入しようとする取り組みをすすめています。

講演では、子どもの貧困問題にかかわり、教職員や地域の方々ができることについてもお話しいただく予定です。みなさまのご参加をお待ちしております。

記念講演
 子どもの貧困

ーソーシャルワークの可能性ー

大阪府立大学大学院教授・山野則子さん

厚生労働省調査(12年度実績)によると、18歳未満の子どもがいる世帯の相対的貧困率は16.3%と悪化しています。こうした中、教育の機会均等を保障し、格差を是正し、貧困の連鎖を断ち切ることを目的とした「子どもの貧困対策推進法」が成立しましたが、具体的な施策にはまだ結びついていません。

そのような中、学校の役割がさらに重要になってきています。学校を子どもの貧困問題のプラットフォームと位置づけることで、子どもたちの生活背景にある人権や貧困の問題を把握し、福祉との連携をはかることが可能となります。

21世紀科学研究機構スクールソーシャルワーク評価研究所所長も務める、大阪府立大学の山野さんは、市町村に福祉の専門家を、学校にスクールソーシャルワーカーを導入しようとする取り組みをすすめています。

講演では、子どもの貧困問題にかかわり、教職員や地域の方々ができることについてもお話しいただく予定です。みなさまのご参加をお待ちしております。

14日の全体会は、塩屋小学校体育館で午前9時15分に開会し、同小のコーラス部と金管バンドクラブがオープニングを飾ります。また、大阪府立大学大学院教授の山野則子さんを講師に、「子どもの貧困ーソーシャルワークの可能性ー」と題した記念講演があります。

14日午後と15日の分科会や展示・体験コーナーは、赤穂西中学校と塩屋小学校でおこないます。また、ステージ発表は赤穂西中学校体育館で14日午後12時40分～1時20分、15日午後12時10分～12時50分に開催します。(別項参照)

会場周辺の道路は混雑が予想されますので、お早めにお越しください。また、周辺路上や店舗等への駐車は厳禁となっております。駐車場には限りがありますので、乗り合わせでの来場をお願いします。

両会場とも上履きが必要です。(ご持参いただくか、会場で販売しているスリッパ(百円)をおもとめください。

当日は、必ず入口で受付を済ませて入場くださいますようお願いいたします。

ステージ発表

赤穂西中学校 体育館

子どもや地域のみなさんによる表現活動の発表の場です。お昼休みにどうぞご覧ください。

14日(土) 12:40~13:20

- ① 合唱 みんなで歌おう!
[AIOI すみれ少年少女合唱団/相生市]
- ② バトントワーリング・ポンポンダンス
[MITSU バトンクラブ/たつの市]

15日(日) 12:10~12:50

- ① 和太鼓演奏
[幕嵐(バクラ)/佐用町]
- ② よさこい踊り
[よさこい☆フレンズ/宍粟市]

展示・体験コーナー

14日(土) 12時〜16時30分
15日(日) 8時〜15時
「展示」9時〜15時 「体験」9時〜15時



塩屋小学校

第22回「いのちの教育」手づくり教材・教員展

虫と遊ぼう

佐用町昆虫館では、カブトやクワガタなどの昆虫だけでなく、カエルやイモリなど園庭内にすんでいる生き物にふれることができます。

みんなで作ろう。赤穂の塩

播州赤穂に昔から伝わる「塩づくり」。伝統的な製法でつくられた「赤穂の塩」は、旨みのあるまろやかな塩味が人気があります。

革を使っていろいろな動物を作ろう



革細工って難しいものだと思ういませんか？「水につけた革は柔らかくなる」、加工しやすくなるのです。1枚のシンプルなお革がいろいろな動物たちに生まれ変わります。ぜひいっしょにつくりましょう。

W H A T S 教職員共済

教職員共済とは、正式名称を「教職員共済生活協同組合」といい、「助け合い」の精神によって、教職員の仲間の手で行われた協同組合です。ここでは、その「助け合い」の歴史から、各種共済商品の内容など、

ニホンミツバチを飼うと環境が見えてくる



赤穂西中学校

当コーナー講師の神崎さんは、小学校に勤務していたころ、趣味で飼っていたニホンミツバチを通じて多くのことを学びました。これらを人に伝えようと、児童自らが通年飼育観察する

親子でつくろう郷土料理教室(15日)

心に、子どもたちの成長・発達段階に合わせて理解しやすいようにと工夫を凝らして製作した手づくり教材です。



赤穂西中学校

このコーナーでは、赤穂市立海洋科学館・塩の国からお招きした講師のお話を聞きながら、土鍋で鹹水(かみすい)を煮詰めて、塩づくり体験ができます。もちろん、できあがった「赤穂の塩」はお持ち帰りの上、おいしく味わってみてくださいね。

布のおもちやづくり「さわる絵本。おもちゃ展」

普段、学校の給食をつくっている栄養教職員と一緒に、地元の特産物を使った料理をつくってみよう。(参加は事前申込の方のみとなります)



安全・安心でおいしい学校給食展(試食コーナー)

兵庫県教職員組合栄養教員部は、生きた教材である「安全・安心でおいしい学校給食」の充実をめざして、各地域の特色を生かしたとりくみをすすめています。日頃の活動の一端を知っていただくためにも、ぜひお立ち寄りください。

子ども多文化共生センター展

「さわる絵本連絡協議会」による、布のおもちやづくりと作品の展示は、10年目を迎えます。多様なテクスチャーの布でつくられた絵本や遊具は、温かい手触りと発想の豊かさが人々をひきつけてやまない魅力にあふれています。

災害を知る・学ぶ。語り継ぐ

1976年9月13日、台風による大雨で下三方小学校を中心に家屋が土砂にのみこまれました。当時、運動場には300人もの人が避難していたにもかかわらず、1人も犠牲者を出さずすみました。今でも、子どもたちが当時の思い、災害の怖ろしさ、支援への感謝、減災へのとりくみを地域に伝えていきます。



また、阪神・淡路大震災で親や保護者を亡くした震災遺児の子どもたちに奨学金を給付する「わかば奨学金基金」を、(一財)兵庫県学校厚生会と協力して設立しました。それらのとりくみをパネル等で展示します。

子ども多文化共生センター展

子ども多文化共生センターは、芦屋市にある県立国際高等学校と、県立芦屋国際中等教育学校の敷地内にあります。外国人児童生徒等にかかる教育相談、日本語指導が必要な外国人児童生徒を支援する子ども多文化共生サポーターの派遣調整、また通訳や翻訳、母語や母文化の紹介など、多文化の多彩な活動ができるボランティアを紹介しています。



「第8回親から子へ・子から親へのハガキ大募集」では、一般のみならずから多数の応募があり、応募総数3249点の中から、入賞作品55点を展示します。

兵教組教育文化・社会貢献事業展 わかば奨学金基金展

兵庫県教職員組合は、多くの教職員から「協賛金」をつくり、教育文化・社会貢献事業をおこなっています。

また、阪神・淡路大震災で親や保護者を亡くした震災遺児の子どもたちに奨学金を給付する「わかば奨学金基金」を、(一財)兵庫県学校厚生会と協力して設立しました。それらのとりくみをパネル等で展示します。

第36回あすをひらく美術教育展(2日目は14時まで)

私たちは、子どもたちの感性を高め、思いをゆたかに表現し、造形する力を身につけさせる美術教育のあり方をあきらかにしたいという願いから、長年にわたってこの美術教育展を開催してきました。総合学習を通して生まれた作品なども展示されています。



この教育展は、完成した作品の優劣を競い合うものではなく、授業でとりくまれた指導の経過がわかる、あるいはひとりの子どもの成長していく姿がわかる記録等、教職員が日頃とりくんできた内容を交流し、学び合える場として考えています。そのような観点でご覧ください。

「兵庫の教育をよくする県民署名」にご協力をお願いします。

昨年、県内各地の皆様から26万6502筆の署名をいただき、その署名をもとに、兵庫県知事・教育長・県議会議長に対して要請をおこないました。とりくみの結果、「キャリア教育の推進」「ひょうごつまずきポイント指導事例集等作成」「地域未来塾の開設」「小中一貫教育調査研究」「すべての教職員のためのインクルーシブ教育システム構築研修」「ICTの利活用による課題解決型授業研究」等が新規事業として実施され、「子ども多文化共生サポーター」「進路指導充実加配」の継続配置といった子育て支援・教育条件整備にもつながりました。

すべての子どもたちにゆきとどいた教育を!

ひょうご教育フェスティバル記念事業 子どもと親の劇場 貞松・浜田バレエ団公演

動物のカーニバル・白鳥の湖・日本のバレエ(まつり)、その他
11月13日(金) 午後6時開演(午後5時30分開場)
上演協力金 小・中学生500円 大人1000円 ※乳幼児は無料
会場 上郡町生涯学習支援センター 赤穂郡上郡町上郡459-1 (駐車場あり)
申し込み 兵庫県教職員組合 赤相支部 TEL: (0791) 22-5164 FAX: (0791) 23-1528